



秋彼岸法要 九月二十二日（日曜日）午前十一時から

彼岸法要後

落語「井戸の茶碗」他一席／柳家さん喬師匠

【柳家さん喬師匠自己PR】落語を演じる事により、お客様と同様の場面・人物を創り上げそれを、より楽しく面白く聴いていただけるように心がけております。落語のライブの楽しさと落語美学の素晴らしさをお客様と共有出来るような噺家でありたいと思っております。

予告 秋からの新シリーズ

不連続シリーズ「見つけた」

春のことでした。つい油断して、年忌法要の塔婆の依頼を電話で受けてしまいました。塔婆をたてる施主の名を電話で聞くと、名前の字をまちがえるので、年初にお配りする「年忌法要申込書」に記入していただくのが通例です。油断とはこのことをいうのでしょうか。その日に限って電話でうかがってしまったのです。それも、晚八時過ぎで、少しばかりアールコールのはいった頭と耳で。

その結果、法要当日に墓参される時になって、大事な方のお塔婆を書き忘れていたことを指摘されました。申し訳ないことをいたしました。

そんな事があって、塔婆の依頼は電話では受けないと、誓いを新たにしました。そして、夜八時以降、お酒の入った頭と耳では大事な要件の電話には出ないとも誓った日から数日後の晩、見知らぬ番号から電話がかかってきました。03発信だから都内です。例によって何かの営業の電話だったら、即刻切ろうと思って受話器をとると、NHK・Eテレのディレクターだという。世の高僧がたが出演されている『宗教の時間』への出演交渉かと思つたら、何のことはない。『にほんごであそぼ』という幼児番組で「ぼつがびょうぶにじょうぶにぼつがびょうぶのえをかいた」という早口言葉をやるので、お寺の庭で屏風に自画像を描いて欲しいという。なんで、俺なんだ。何で松岩寺なんだ。熊谷市内

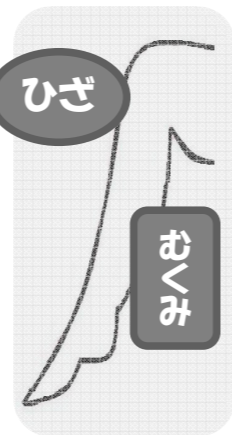
がんばらずに 自分でカラダをラクにする ～ 体調改善運動 ～

コンディショニング教室

9/7(土)、10/5(土)、11/2(土) 13:30～15:00

場所：松岩寺文化ひろば 約90分/受講料 ¥1000

首～肩こり、足～ひざ～股関節の不調・むくみなど、カラダの気になる部分をむりなく自分で改善する ゆる～いエクササイズです。どなたもお気軽にどうぞ！
・服装／ゆったり動けるもの(ジャージなど。ジーンズ不可) ・持ち物／バスタオル×2枚
インストラクター➡ 米山 美咲 (日本体調改善運動普及協会認定 プロフェッショナル・トレーナー)



首

肩

ひざ

むくみ

編集後記

エンディングノートについて考える

エンディングノートなるものがあります。自身の死に際して、財産・介護・葬儀に対する希望を、書き残しておくノートのことをいうらしい。数多くの既製品が出版・販売されているようです。死を直視して、自己の希望を書き残すことは素晴らしいし重要なことだと思います。でも、今のエンディングノートには私は反対です。なぜなら、またしても終活のマニュアル化だからです。出版社から見本に送られてきたエンディングノートが手もとにあります。目次には「私のプロフィール」から始まって、「大切な人へのメッセージ」「保険証・年金・カード」などの十の項目がある。誰でも、始めて経験することだから、懇切丁寧な手引書があった方が便利だけど、自分の死くらい、マニュアルどおりじゃなくて自由にしたいと思いませんか。マニュアルを広辞苑でひくと、「取り扱い説明書」とあります。でも、死は説明できないものです。江戸時代の禅僧・正受老人が次のような遺偈(ゆいげ＝遺言の詩)をのこしています。

末期の一句す／死は急にすて、道(い)うことかたし
無言の言を言として／不道不道(いわけいわけ)

死んだ先のことは言葉でいうこともできないし、指し示すこともできない、そんな意味でしょうか。この事とエンディングノートは別の問題ではありますが、すべてをマニュアル化しなくても、と思つたのです。

ところで、みなさんにあまりお知らせしていませんが一昨年に駐車場を広げてから、寺で通夜葬儀をした方が何人かおられます。生前からお約束した方もいますし、斎場がとれなかったからなど理由はいろいろですが、葬儀社のマニュアルどおりでない葬儀が本来の姿です。ご希望ならばエンディングノートにそう書いておいて！



NHK Eテレ にほんごであそぼ
6/25 午前 8:40～8:50 午後 5:15～5:25
7/9 午前 8:40～8:50 午後 5:15～5:25

不連続シリーズ

見つけた！

だったら、何億円もかけて本堂を新築した寺だつてあるではないか。何か勘違いしている。「うちは、風光明媚な寺でもないし、お宝もない。その上、俺は中学二年の写生大会以来絵なんか描いたことないよ」それで構わないという。新種のオレオレ詐欺かとも疑ったけれど、どうも本物らしい。というわけで、その一週間後に寺の庭で、テレビカメラを前にして、人形浄瑠璃の豊竹咲甫大夫の語りで鶴澤清介さんの三味線をバックに描いたのが、今回の絵というわけです。

あまり、テレビのネタをばらさないで欲しいという要望だったので、このくらいしか書けませんが、愉快な体験をさせていただきました。でも、幼児にとつて面白い番組にはならなかったのでは。それにしても、なぜ私だったのかというと、NHKの担当者が私のブログを読んでいたらしいのが発端のようです。

こうした寺からのお便りは、主に壇家さんが読者ですが、ホームページやブログはどなたが読んでくれているかわからない。わからないからつい更新するのが億劫になって、半年くらいほつておくこともあったのですが、それではいけないと教えられ、見えない読者を見つけた今回の出来事でした。